

6-3 3/5時の指導計画

(1) 目標

- ・ 古典には様々な種類の作品があることを理解できる。
- ・ 現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取ることができる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 学習計画表を確認し、本時の目標を知る。	学習計画表	○「浦島太郎」「一寸法師」「わらしべ長者」の絵本を提示して、古典と比べることを知らせる。	
現在も読まれている昔話とその元である古典の現代語訳とを読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取ろう				
展開	2 「浦島太郎」「一寸法師」「わらしべ長者」の大体の内容を発表し合い、確かめる。  3 絵本を手掛かりにして、グループで取り組みたい作品を決める。  4 昔話の原典である古典の現代語訳を読み、自分の知っている昔話や絵本の記述との違いなど、気付いたことをワークシート②に書き出す。  5 気付いたことをグループで出し合い、どういう点を紹介するのか、もっと調べたいことはないか等話し合う。	昔話の絵本   現代語訳資料 ワークシート②	○「浦島太郎」や「一寸法師」は「御伽草子」,「わらしべ長者」は「今昔物語」が原典の古典であることを知らせる。  ○グループで、昔話の内容について知っていることを交流させながら作品を決めさせる。  ○選んだ古典の現代語訳資料を配布し、共通点や相違点に印を付けさせながら個人で読ませ、ワークシート②に気付いたことを書き出させる。  ○調べたいことは、学校図書館等を利用して調べることができることを知らせる。また、次の1時間は学校図書館で学習することを伝える。	【言②】 古典には様々な種類の作品があることを理解している。 【観察, 学習計画表】  【読①】 現在も読まれている昔話とその原典である古典の現代語訳を読み比べ、その内容の違いや古文の特徴を紹介するために、必要な情報を読み取っている。 【観察, ワークシート②】  現代語訳とそれに対応する絵本の記述を、短い一部分で取り上げ、比較させる。
まとめ	6 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	学習計画表	○本時で古典について初めて知ったことと、昔話と古典を比較して感じたことを、「学んだこと・感想」の欄に書くように指示する。 ○次時は学校図書室で学習することを伝える。	